

1 研究主題

「主体的に読み、目的に応じて自分の言葉で豊かに表現する子どもの育成」
～言語活動の充実を通して～

2 主題設定の理由

(1) 教育の今日的課題から

新学習指導要領においては、知的活動やコミュニケーション、感性・情緒の基盤である言語力の確かな育成のために、国語科における指導の充実とともに、各教科等においても国語科で培った能力を基本に言語活動の充実を図ることが重要であると述べられている。

さらに、実生活・実社会において、なおかつ生涯にわたって、新たな課題に応じて学んでいく力と、新しい知識・理解をはぐくんでいけるような力と態度を育てることは、これからの社会を生きる子ども達に必要なものであると考える。

そこで、国語科を中心としながら、言語活動を充実させ、各教科等の基礎となる言語能力を身につけさせるとともに、知識・技能を活用する学習活動やこれらの成果を踏まえた探究活動を通して、思考力・判断力・表現力を養うことが大切であると考え、本主題を設定した。

(2) 学校教育目標の具現化から

本校の学校教育目標は、「個性豊かで社会性に富み、たくましい体力と実践力をもつ子どもの育成」である。その具体的な子ども像を「思いやる子」「考える子」「がんばる子」としている。全教育活動を通して、健康な心身と豊かな心をもち、自ら学ぶ子どもの育成を目指しているところである。「考える子」の具体的な目標として、自分の思いや考えを目的や相手に応じて具体的な発言や文章として表現し、基礎的・基本的な知識・技能を身につけた子どもを育てようと努めている。そのためには、学力形成の基盤となる国語力の育成が欠かせないとする。そこで、言語活動を支える国語力について共通理解をもちながら、国語科の授業の充実を図ること、そして、国語科を中心としながら全教育活動を通して国語力を育てていくことで、学校教育目標の具現化が図られると考えた。

(3) 児童の実態から

全国学力・学習状況調査においては、基礎的な知識・技能の習得を問うA問題の正答率は比較的高いものの、知識・技能を実社会の様々な場面に活用する力を問うB問題の正答率が低く、身に付けた知識・技能を活用する力が十分でないことなどが挙げられた。

このような状況を改善していくためには、身に付けさせたい力を明確にしなが、習得した知識・技能を活用することができるような言語活動を適切に位置づけること、そして、目的に応じたさまざまな表現様式に即して表現することができるよう指導過程を工夫する必要があると考える。

そこで、国語科を中心としなが、言語活動を充実させ、各教科等の基礎となる言語能力を身に付けさせるとともに、習得した知識・技能を活用する学習活動を通して、「主体的に読み 目的に応じて自分の言葉で表現する子ども」を育成することを目指していきたい。

4 副題について

18、19、20年度は、「基礎・基本の定着」と「個に目を向けた学習指導」の両面から研究主題に迫ることとした。研究教科は、基礎・基本にかかわりが大きく、どの学年でも取り組める国語科と算数科に設定し取り組んだ。19、20、21年度は、「基礎・基本の定着」を図るため、全校で取り組む活動を実施した。19年度は、算数科の取り組みとして「算数ドリルタイム」を全校で週1時間行い、基礎的な知識・技能の習得を目指した。また、各学年で取り組んでいた暗唱を全校で系統的に学習できるように話し合い、9月から実施した。21年度からは、月の後半に「朝のドリルタイム」を設定した。また、暗唱は発表の場を年間計画の中に設定することで、他から認められたり異学年の発表を聞いたりして次への意欲を持つことができるようにした。

22年度は、今まで取り組んできたドリルタイムや暗唱等も継続しながら、「言語活動」に重点をおいた。学習指導要領の改訂に伴い、「学習過程の明確化」と「言語活動の充実」を視点として授業改善をすることが大切である。そこで、今年度もサブテーマを「言語活動の充実を通して」と設定し、言語活動に目を向けた学習指導を充実させ、言語能力の育成を図ることにより主題にせまりたい。

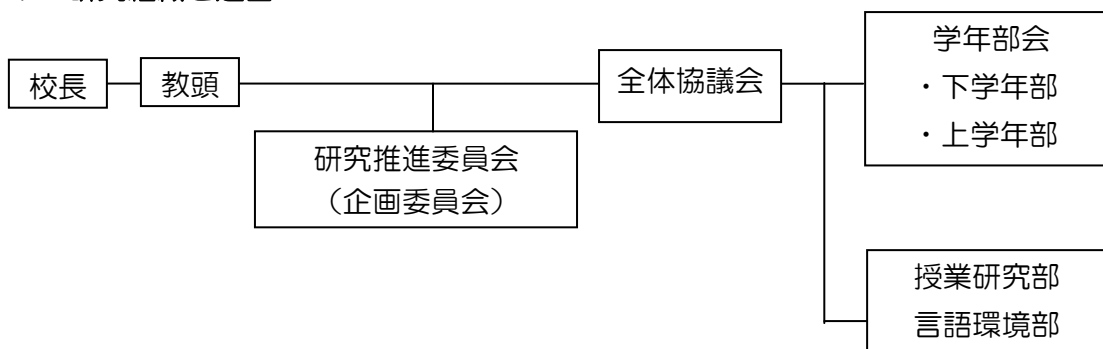
5 研究の仮説

「話す」「聞く」「読む」「書く」活動を通して指導法の工夫・改善を図ることで、確かな学力を支える言語能力の育成ができ、そのことで主体的に学ぶ力や共に伸びる力が高まると考える。

6 研究内容

- (1) 新学習指導要領の理解を深める。
- (2) 言語活動についての理論研修を行い、種類や特徴を明らかにし、学校全体で系統性のあるものにして、指導力の向上を図る。
- (3) 言語環境の整備や学習規律の定着をもとに、自分の考えを言葉で適切に表現し、伝え合う力の育成を図る。
- (4) 話し合い活動やグループ活動への指導や支援を工夫し、子ども同士の豊かなかわりを充実させる。

7 研究組織と運営



8 研究計画

	前 期	後 期
主 な 研 究 の 内 容	<ul style="list-style-type: none"> ・ 各部活動計画作成 ・ 地域内小・中学校との協力体制作り ・ 学力検査・児童アンケート調査(1) ・ 研究授業 ・ 先進校の研修視察 ・ 講師を招いての研修 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究授業 ・ 先進校の研修視察 ・ 講師を招いての研修 ・ 学力検査・児童アンケート調査(2) ・ 1年次のまとめ ・ 研究成果の提供・公開